



ジョージア工科大学・総合研究大学院大学 学術の発展に向けた日本との協力

本日、ジョージア工科大学と日本の総合研究大学院大学（総研大）との間で、相互協力に関する3つの覚書への署名が行なわれました。これはジョージアの教育・学術分野において極めて重要な出来事です。相互協力に関する覚書の作成は2018年8月に開催されたジョージア・日本学術会議で決定されました。

ジョージア工科大学での署名式には、ミヘイル・バティアシヴィリ・ジョージア教育・科学・文化・スポーツ大臣、アルチル・プランギシヴィリ・ジョージア工科大学学長・ジョージア学士会員、上原忠春・駐ジョージア日本国特命全権大使および三原智・高エネルギー加速器研究機構（KEK）教授・COMET 実験マネージャーが出席しました。

覚書は、総研大とジョージア工科大学との今後の学術協力を質的に新たな段階へ移行させるものです。

バティアシヴィリ教育・科学・文化・スポーツ大臣が指摘したように、日本側との覚書の発効により、ジョージア工科大学の学生および研究者には貴重な機会がもたらされます。

バティアシヴィリ大臣は以下のように述べました。「ジョージア工科大学は、同大学のみならずジョージア全体にとって非常に重要である国際的プロジェクトに活発に関与しています。署名が行なわれた3つの覚書はいずれも重要なプロジェクトの開始を目的としています。これはジョージアの学生および研究者にとって貴重な機会です。覚書は、ジョージア工科大学およびその研究者らが国際的プロジェクトに積極的に参加しており、この面で同大学がトップランナーであることを改めて裏付けるものです。これは我々が取り組んでいる学術体制の改革において、この改革の最も重要な要素の一つである、将来に向けた研究活動の一つの好例です。3月末には、ジョージアの学術の発展を目的とした具体的な動きについて話し合う大規模な国際会議が計画されています。学術をどのように発展させていくべきか、多くの優れた国際プロジェクトに参加できるようにジョージアの研究者をどのように支援するべきかに関して、本日の会合は極めて重要な事例の一つです。」

第一の覚書は、素粒子、高エネルギー物理学ならびに工学技術の分野におけるジョージア工科大学と総研大との協力およびジョージアの博士課程学生の教育に関するもので、ジョージアにとって非常に重要です。日本側はジョージアの博士課程学生が研究の一部を日本で行ない、そのためにKEKおよび大強度陽子加速器施設（JPARC）の貴重な研究・実験設備を利用できるようにする

用意を表明しました。また、日本側はジョージアの博士課程学生が日本で教育を受け、研究を行なうために十分な経済的支援を提供します。

第二の覚書によれば、ジョージア工科大学の博士課程学生には学位が二重に与えられ、ジョージアと日本のそれぞれの学位記が与えられます。また、日本の文部科学省はジョージア工科大学の学位を認定します。

第三の覚書はジョージア工科大学と総研大の間の研究者の交換プログラムに関するものです。

アルチル・プランギシヴィリ・ジョージア工科大学学長が述べたように、この覚書はジョージアにとって極めて重要であり、基礎・応用科学分野におけるジョージアの可能性を拡大します。また、プランギシヴィリ学長によれば、覚書の発効によって、ジョージアにおける技術インフラおよび教育プログラムが改善され、大規模な国際的学術プロジェクトへのジョージア工科大学やジョージア研究者の参加が促されます。

プランギシヴィリ・ジョージア工科大学学長は以下のように述べました。「覚書によれば、博士課程の二重のプログラムが実施され、ジョージア工科大学と総研大がそれぞれ博士号を授与する。高いレベルの技術や現代物理学の方面においてこのような共同プログラムが作成され、日本の素晴らしい実験環境にジョージアの研究者が活発に参加できるようになることは、ジョージア工科大学にとって非常に重要である。この覚書がすでに署名されたことは喜ばしい。」

覚書への署名の後、三原智 KEK 教授・COMET 実験マネージャーにジョージア工科大学の名誉教授号が与えられました。アルチル・プランギシヴィリ・ジョージア工科大学学長が賞を授与しました。

ジョージア工科大学
広報課

2019年2月14日